

東大の未来図、 日本の農の未来図を描く

今回は海外同窓会の活動を全世界的な視点で捉えつつ、直接的な学生支援を構想する卒業生と、都市農地の貸借による新規就農者の第1号として、小規模ながらも都市部にこだわり、自分の農業スタイルに挑戦している若き就農者、お二人の姿をご紹介します。



仲間と購入した中古飛行機。2023年春のライセンス取得が目標。

なんとなく…で、人生の ほぼ半分はアメリカ生活

工学部を卒業後、三菱電機に入社し、エンジニア職に就きました。当時日本の企業では専門性に限らず、ひと通りの業務を教えてくださいました。これは僕のキャリアのベースになっていますし、大変感謝しています。

5年半で退職し、テキサス大学に入学しました。四半世紀に及ぶアメリカ生活の始まりです。そもそもなぜテキサス大学に進学したのか、ですが、卒業旅行でアメリカを訪れて友人が各地にできたこと、漠然とアメリカに住んでみたいと思ったのがきっかけです。

Ph.D.課程を修了後はさまざまな業界のスタートアップやIT企業でキャリアを積みました。ネイティブではないため、転職に関しては常に準備運動を怠らないように心掛け、ステップアップに務めました。

グローバル赤門会と 学生への直接支援

コロナ以降、公私に渡りZoom会議をすることが多くなり、日本に帰国したメンバーとも気軽に話す機会が増えました。

桑港赤門会（サンフランシスコ赤門会）の会長を務めていますが、

実際には他の地域に住む卒業生を知らないわけです。であれば、居住地域に関係なく、横断的な同窓会活動ができるかもしれないのでは？と思いつきました。

手始めに、校友会の登録同窓会事務局宛にメールでコンタクトをしました。僕のプランに賛同してくれる海外同窓会の

数か所から手が挙がり、これはいける！と思いました。

北アメリカ内、ヨーロッパと徐々にエリアを広げ、最終的には世界の赤門会を「世界赤門会議」という形でつなぎました。今後は、

その結びつきを強化して「グローバル赤門会」として、その力を強力なツールとして使って

いきたい。世界のどこかに知っている人がいると考えるのは興味深く面白いですよ。

在学生との交流会を始めたのも、海外の卒業生のネットワークを利用して学生と楽しく交流したいと思ったからです。海外に興味のある在学生×世界各地の卒業生との交流です。卒業生はいろいろなバックグラウンドを持っています。違う人たちと手を組むことは成功の要因でもあり、この取り組みはずっと続けたいですね。

もうひとつのプラン。それは海外に留学する東大生への直接的な支援です。以前、他大学の海外同窓会の会長と話をしていた、そこでは留学してきた学生と食事会を開催したり、住む場所のセットアップをする等、海外在住の卒業生が重要な役割を果たしていると聞きました。まさしく私たち海外在住の卒業生の出番です。桑港赤門会には「教えたがり」がたくさんいるので、我々も同じような直接

支援ができないだろうかと考えています。

自分らしく人生を 楽しみたい

コロナ禍でも新しいことにトライして生活を楽しもうと思い、実は今、飛行機の操縦免許を取得中です。ライセンスには学科と実技が必要です。ひとりで勉強を続ける自信がなかったのも、まず操縦免許に興味のある仲間を募りました。次に分厚いテキストを均等に分け、Zoomで互いに教えあう、いわゆる「輪講」方式で勉強しました。

実技は一般的に80~100時間で取れるといわれています。通常はレンタル飛行機を利用するのですが、我々は4人の仲間たちと中古飛行機を購入し、それで練習をしています。購入した飛行機はスクールに貸し出し、レンタル料として収入を得ているので無駄にはなりません。

2022年の3月に息子が誕生しました。父親としてはもちろん、若い後輩たちとの交流、これから実現にむけて動き出す新規プロジェクトなど、新たな体験に、今からワクワクしています。

佐藤公一

Sato Koichi

後輩の支援や卒業生同士の交流は自分の豊かさや歓びにつながる



桑港赤門会のメンバーと。年齢層も幅広い（中列左から2番目が佐藤氏）。

Profile

1993年工学部電子工学科卒。テキサス大学博士課程修了後、IT関連企業、Amazon、Google等に勤務。2019年から桑港赤門会の会長。